

2026年度総会（ごあんない）

日時 5月16日（土）受付12時30分～

講演 13時～14時00分

会場 母校一階 視聴覚室

演題 「ものづくり・人創り」 都立工芸46年間 生徒と共に学ぶ

講師 青柳俊政氏（インテリア科元教諭）

総会 14時20分～15時00分 会場 視聴覚室

懇親会 総会終了後開催 会場 会議室 会費 2,000円（当日集金）

※御出席の方は、同封のハガキに必要事項をご記入の上
必ず4月30日（木）までに投函をお願い致します。
ホームページからのお申し込みもできます。

誠実 元気 信愛 規律

こうげい

都立工芸同窓会会報 No.187

2026年（令和8年）4月10日 発行

春 Spring, 2026

投稿を歓迎します

- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：都立工芸同窓会

（住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。）

またはホームページのお問い合わせより
ご投稿ください。



同窓会
ホームページ

講師からのメッセージ

青柳俊政

1974年（昭和49）職業訓練大学校卒業後、従業員500人の広島の家具メーカーに研修生ではなく正社員として入社。生活の基盤は社員寮で寮長と2人部屋です。仕事は、製造部化粧加工課で生産ラインに加工材料等を出荷する事です。加工材料とは、1類合板に突き板を機械貼りやアイロンを使い手貼りした物です。薄突きや新規の突き板の場合、接着剤の調合に問題が発生しやすく、それが最初のミッションです。尾道の県立工芸試験場で剥離試験やウエザーメーターで経年変化測定などの製品試験、また岡山県玉島の接着剤メーカーと新材料に適した接着剤の研究を本来の仕事以外でこなしていました。これを完成させることが在職中で一番重かったミッションです。このミッションを含め現場で学んだ実務から、都立工芸の実学の大切さについてもお話しさせて頂きます。



2年生実習（小引き出しの制作）

講師プロフィール

1970年（昭和45）に労働省（現 厚生労働省）所管の職業訓練大学校木材加工学科に入學、各県にある職業訓練校（現 職業能力開発センター）の指導員養成を目的とした大学です。しかし、企業との共同研究活動をしたく工業試験場（現 産業技術研究センター）を目指しましたが空きがありませんでした。共同研究は、企業と近い専門高校で可能だと切り替え目指しました。工業高校で教員になるのはさすがに力不足と思い、企業で3年間経験を積み教師になろうと計画し、家具等が盛んな広島で学び、4年後地元の高校で教職をスタートしました。1980年（昭和55）4月、都立工芸高等学校に異動し教職を本格的にスタート。80年代初め、「工業技術基礎」「工業数理Ⅰ」「Ⅱ」が新科目として始まり理数系が苦手な生徒からため息が漏れる中、授業をスタート。これが室内工芸科に異動した目的の一つでした。「木材加工学会」「デザイン学会・家具部会」「空気調和・衛生工学会」などで学ぶ。家具マイスターの資格も取得、現在インテリア科実習の時間講師。



会長就任の二揆

新会長 佐藤貴志(1989年・F卒)

この度、理事会において会長を拝命いたしました。歴代の会長が築いてこられた同窓会の輝かしい歴史と、母校を想う大



切な伝統をしっかりと受け継ぎながら、皆様と一緒に楽しみつつ私にできることを精一杯取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長としての活動をスタートするにあたり、まずは同窓会を末永く存続させていくための基盤づくりに取り組みます。特定の役に負担が集中しすぎることのないよう業務を分担し、全員で支え合える体制を作ることが不可欠です。誰がどのような役割を担っているかを互いに共有し、助け合える環境を整えることで、誰もが気軽に活動に参加できる組織を目指します。どのような状況下でも活動を絶やす事な

く、次の世代へ確実にバトンを繋いでいく「しなやかな運営体制」を築くことを、私の任期の大きな目標といたします。

本会は数多くの卒業生によって構成されていますが、今後の活動を支える現役会員、特に若い世代の参加を広げていくことが喫緊の課題です。一人でも多くの同窓生に会の活動に関心を持っていただき、会費納入や行事への参加を通じてお力添えをいただくことが、そのまま母校への力強いエールとなります。交流の場である五月の総会では、恒例の記念講演が毎年ご好評を頂いており、今年も皆様に喜んでいただけた充実した企画を準備しております。「工

芸」で学んだという共通の絆を持つ皆様が、世代を超えて一人でも多く仲間に加わってくださることを心より願っております。

さらに、同窓会が母校の発展のためにどのような役割を担っているか、ホームページ等を通じて広く発信するとともに、卒業生と在校生を繋ぐ架け橋となるような活動にも力を注いでまいります。

良き伝統を礎に今の時代にふさわしい「母校への恩返し」を実現できるよう邁進していく所存です。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

会長退任の二揆

前会長 藤岡俊平(2014年・M卒)



このたび同窓会会長をバトンタッチさせていただく事となりました。在任中は同窓会の皆様をはじめ、PTAの皆様、母校関係者の皆様より格別のご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

す。振り返りますと、同窓会を取り巻く環境は変化を続け、従来のやり方だけでは対応しきれない課題も増えてまいりました。そのような中でも「卒業生同士のつながりを守り、母校を支える」という原点を大切にし、行事運営の安定化、会員への情報発信の改善、若い世代が参加しやすい工夫など、できることから一つずつ取り組んでまいりました。仕事と同窓会会長の両立はスケジュール的にも厳しいものがありました。皆様の温かな助言と支えにより、任期を全うできましたことは私にとって大きな励みであり、かけがえのない経験となりました。同窓会は、多様な価値観や生活環境の中で、それぞれが無理なく関われる形を模索し続ける

ことが重要だと感じております。対面で集う機会の意義は変わりませんが、一方で、情報が届きやすい仕組みや、参加の入口を広げる工夫も欠かせません。特に同窓会広報委員会を中心にホームページでの継続的な情報発信がなされております。『老・壮・青』の繋がりをより強固なものになることの一助となっており、今後母校との結びつきがより強まっていくことを願ってやみません。後任の佐藤新会長には、これまで培われた伝統を大切にしつつ、新しい発想を取り入れ、同窓会をさらに前進させていただけるものと確信しております。今後も各地で活躍される同窓の力が母校の誇りとなり、在校生の励みとなりますよう、引き続き温か

なご支援を賜れば幸甚に存じます。また、行事参加が難しい方も近況やご意見を寄せいただき、同窓会活動にお力添えください。何卒よろしく願ひ申し上げます。私は今後、一理事として同窓会の発展を応援し、必要な場面では微力ながら協力してまいる所存です。

末筆ながら、日頃より支えてくださった事務局の皆様、準備や調整に奔走してくださった理事・メンバー各位、陰ながら支えてくださった全ての同窓会員の皆様に重ねて御礼申し上げます。皆様のご健勝と母校ならびに同窓会のますますのご発展を祈念し、退任のご挨拶といたします。

投稿

親子で工芸生

長谷川貴子（2026年定一卒）

「親子で工芸生！」とは言え最初に想像するのは親が昔に工芸高校を卒業し、そのまた子どもも入学したというパターンだろうか。私の場合は子どものすぐ後を追う形で自分も入学を果たした特殊なケースである。息子が一学年上の先輩。もし自分が子どもの立場なら絶対に嫌に決まっている。息子の入学式の帰りに、興奮気味に自分も工芸高校に通いたいと話した時は、意外にも返事は軽めの「いいんじゃない」であった。

今改めて息子にその時の心境を尋ねたら、初めて聞いた時は「本当に？」と、良くも悪くもビックリしたのだそうだ。唯一、科が違ったことが息子にとって不幸中の幸いだったに違いない。

入学のキツカケは教室で隣になった息子のクラスメイトのお母様。何を隠そう全日制希望だった息子が、工芸高校を諦め切れずに定時制を選択した話をしたところ、うちの娘も昔に工芸の推薦で諦め、大学も出たけれどやっぱりあの時、工芸高校に行きたかったと言われ背中を押したのだと。

それを聞いた私の頭の中には「？」しか浮かばなかったが、どうやら工業科は普通科を卒業していても別枠で受験できると

知ったのだ！

生徒の代理で来ていると思っていた息子と同じクラスのシゲちゃん（私より二回りくらい上の先輩）も、入学前の事前準備の際に、とても嬉しそうに工具を見ていた姿に納得。生徒だった衝撃と、私にも出来るかも！と勇気もらい受験。めでたく親子で工芸生。母は現役JKの称号を手に入れたのであった。



息子の課題研究にちなんだ茶筒を制作
夢のコラボレーション



水面—minamo—



魅せる棚——お洒落は足元から——

工芸基金の運用について

一般財団法人築地工芸会工芸基金理事長の藤岡俊平です。工芸基金の資産運用につきましては、これまで安全性を最優先とし、銀行預金・国債等を中心に堅実な管理を継続してまいりました。一方で、低金利の長期化や物価上昇など環境が変化し、従来の運用のみでは基金の目的である母校支援を中長期にわたり安定して支えることが難しくなりつつあります。そこで基金のメンバーにて、運用方針の見直しに着手し、リスク許容度、運用期間、必要資金の見通し、分散投資の考え方等を整理しながら、複数の選択肢を比較検討してまいりました。また、運用判断を個人に依存させないため、意思決定の手順、記録の残し方、外部助言の受け方、金融機関との比較方法など、運用に付随する実務面の整理など課題は多くあります。現時点では、基本方針（安全性・流動性・収益性の優先順位）を確認し、想定リスクの幅と許容損失、評価指標、報告頻度のたたき台の作成をいたします。委員会では、運用案の審議に加え、年次の見直しと緊急時対応も定めます。今後は検討内容を継続的に管理・検証する体制として「工芸基金管理委員会（仮称）」を設置し、手続の透明性を確保しつつ、規程整備と定期報告を行いながら、段階的に運用を進めていく方針です。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

創立120周年行事について

創立120周年を迎えるにあたり、来年2027年5月に記念行事が開催されます。記念式典は文京シビックホールにて母校が主催し、記念祝賀会は都立工芸同窓会・全日制PTA・定時制PTAの共催で行われる予定です。前回の110周年では、来賓祝辞に加え、在校生による作品展示や各科の授業プレゼンテーションが披露され、在校生・教職員・来賓合わせて約1,150名が参加しました。祝賀会は東京ガーデンパレスホテルで開催され、立食形式の懇親会のほか、若手卒業生の活動発表やPTA混声合唱団のコーラスが会場を盛り上げました。120周年でも、母校の魅力と伝統を広く発信し、世代を超えた交流の場となることが期待されています。

神山隆夫（1968年・A卒）



記念祝賀会の様子

2025年 工芸祭レポート

2025年度の東京都立工芸高校の工芸祭は、10月25日（土）・26日（日）の2日にわたり開催され、今年のテーマは「深海探検」でした。入場門は浦島太郎が訪れた海中宮殿を思わせる意匠で飾られ、校庭奥には海中から水面を見上げたような大きな歓迎看板が設置され、来場者を迎えました。25日には一時雨もありましたが、

校庭には初めて2台のキッチンカーが出店し、長い列ができるほどの賑わいとなりました。展示では、タイトルやスローガンに深海を連想させる表現が見られたものの、全体としてテーマ性が強く出すぎず、各科の学年ごとのカリキュラムや成果が分かりやすく伝わる内容でした。

特に「中学生個別相談会」では、工芸高校を志望する中学生や保護者にとって、例年通り有意義な機会となったようです。今年の来場者は全体で7,384名ののぼり、



そのうち同窓生は736名で約1割を占めました。来賓・一般来場者は2,493名と全体の3割を超え、工芸高校への関心の高さがうかがえます。

同窓会ブースでは、今年初めて「工芸祭記念バッジ」の一般販売を実施しました。従来は生徒や教職員に限られていましたが、卒業生のみならず在校生の家族、一般の方、学校説明会に参加した中学生にも好評で、限定200個は2日目の昼過ぎに完売しました。

また、新たな試みとして「卒業生各科カラーシール」を配布し、卒業年や名前を記入して名札のように貼っていただきました。これが在校生や教職員との交流のきっかけとなり、「目で卒業生と分かっている」と好評をいただきました。卒業して間もない方々とも多くの会話が生まれ、同窓会としても大変有意義な取り組みとなりました。

卒展レポート

全日制

初日、3月1日は春の陽気に恵まれ、会場の上野公園、東京都美術館も多くの人出。じつを言うと工芸の卒展見学は初めて。しかし工芸高校の卒展を知ったのは随分前で、都美術館という立派な会場での開催にこぎつけた関係者の努力に感心した記憶があります。会場に入ると生徒ご家族、友人、中学生と思しき来場者。工芸祭とはひと味違った気合の入った作品群、企画やコンセプトパネルではなく「制作出来ること」がこの学校の強みだと改めて感じさせられました。ほとんどが大学進学という現状の中、都立高校という環境での工芸、アートの学びについて、基礎から始め技巧を磨くか、個性に気づかせ伸ばしていくか、社会での即戦力か、その立ち位置が各科展示に表れていると感じました。他校での自身



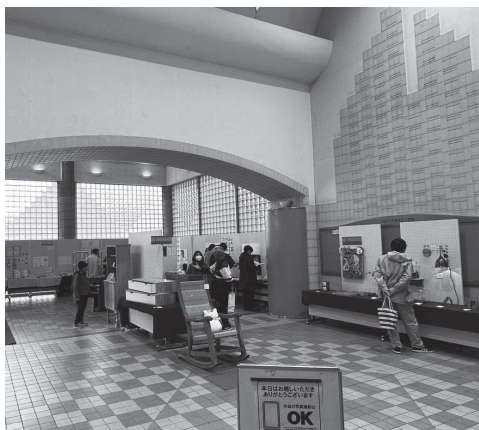
東京都美術館 ロビー(LB)階 第3展示室にて開催

の指導経験に重ね合わせつつ各科の取り組みに思いを巡らせた一日でした。

堀越敏晴（1968年・A卒）

定時制

工芸高校定時制課程では、長年卒展を開催したいという意見はあったものの、実施に至るまでに多くの課題があり開催することができずにいました。今年は多くの先生方、教職員研修センターの方々のご尽力もあり、校内と教職員研修センターで生徒の作品を展示することができました。作品はどれも素晴らしい、生徒自身も自分の作った作品を外部の人に見てもらうことで、ものづくりが人に与える影響を改めて知ることができた機会になっておりました。今年度の経験を踏まえて次年度もより素晴らしい作品を作り飾ることができるように頑張っていって欲しいです。



4年間の集大成を校外展示に先立ち校内展示も開催

関西工芸会支部だより

第62回 関西工芸会の集い

昨年11月22日（土）、京都にて第62回関西工芸会の集いを開催致しました。

関西工芸会は工芸高校全日制・定時制卒業生で関西に移住されている方により組織された同窓会で、90年以上の歴史があります。

現在、関西工芸会として把握している会員は90代の大先輩から20代前半の後輩まで55名がおります。当日は1954



年（昭和29）卒の先輩から2014年（平成26）卒の後輩まで関西工芸会会員様12名と参加者の奥様1名、東京からは都立工芸同窓会藤岡会長・細江元会長・神山先生・そして以前関西工芸会に所属し、現在東京に戻られ偶然その日家族で京都に旅行で来られていた方も駆けつけて下さり、総勢17名で開催する事ができました。

今回、会員の奥様に参加して下さいた事が凄く嬉しかったです。卒業生ではありませんが、関西工芸会の集いを楽しみにして下さり、関西の地で同窓のみんなが明るく楽しく集う姿を笑顔で楽しんで下さいました。

世代の垣根を越えて同窓という絆で友好を深め、東京から離れた関西の地でも学生時代の話や現在の活躍を楽しく語らう場になりました。

これからも伝統ある関西工芸会が継続して活動していけるよう努めて参りますので、現役の工芸生と卒業生の皆様が卒業後の進学・就職等を機に関西に来られる際は、都立工芸同窓会ホームページ『お問い合わせ』にて是非ご連絡下さい。年に一度の集いではありますが案内を送付させて頂きますので、関西に母校の同窓会組織が存在するという事を頭の片隅に入れて頂けたら幸いです。

関西工芸会事務局

松田健（2001年・A卒）

クラス会

1984年卒・A科還暦クラス会

2026年1月24日（土）、1983年度卒業の金属工芸科の還暦クラス会が水道橋駅近のwine 厨房 tanaya suido・rossiで行われました。神山先生を囲んで卒業生8人が参加しました。卒業式以来の顔ぶれもいましたが、数十年間の時の経過も忘れ、昔話に花が咲き、楽しい時間はあつという間でした。また、元気づけに再会したいねと次の幹事を決めました。この記事を見て、連絡の取れていない同級生の次回参加の問合せを期待しています。お問い合わせは、メールアドレスを添えて、「工芸高校同窓会」ホームページより、お願いします。



1977年卒・A科有志のクラス会報告

このたび、2025年11月23日（日）、都立工芸高校金属工芸科（A科）1977年卒の有志が集まり、上野の店舗にてクラス会を開催しました。今回の集まりは同級生9名と、久しく先生を迎えたいと言うことで、A科教師が担当しない珍しいクラスだった我々の担任体育科教師の下田先生。工芸祭を久々に3名で訪問した際、偶然にもエレベーター内で、我々も当時教わった神山先生を見つけ、懐かしい懇談をさせて頂きましたことから、神山先生も含め2名の恩師をお誘いしました。現在の工芸高校についても近況報告頂きました。

木島誠一（1977年・A卒）



110年を超える歩み

もっと知りたい都立工芸の歴史

満70才を迎えた母校工芸のOB達は、約12,700人に及ぶとか……。美術工芸、工業の各界での活躍ぶりを、又、日頃、私達の生活で身近に使われている物や道具が、工芸のOB達の手によって創り出されていることを目の当たりに観て、その歴史と伝統の重みを改めて感じられた。

第10回 創立70周年・80周年・90周年 記念行事・展示会・工芸祭

○70周年に教育目的主眼の工芸祭

1977年（昭和52）の70周年記念の工芸祭はテーマを「作ってみよう、みんなの力で」として、これまでとは少しだけ違っていた。ここ数年の工芸祭の反省に立って生徒会を中心に自主的活動を育成するという教育目的を主眼としていた。そのため、生徒の自主性と教師の指導性のジレンマもあった。だが、実習公開・展示・即売・公演すべてにおいて、生徒は自分たちの手で取り組んだだけに、長い準備期間を通して、さまざまな



「70周年記念工芸祭正面入口」より



「創立80周年記念工芸祭の入口装飾」

場面で失敗やトラブルを経験し、対話の意義を知り、もつと日常的に積極性を持つことの重要さに気づいたことは最大の成果だった。

○80周年に卒業生100名が300作品を展示

築地工芸会（現・都立工芸同窓会）はこれまでも母校の周年記念行事に協力をしてきたが、1987年（昭和62）に80周年という大きな節目を迎えるにあたり、独自の記念誌の編集制作、大規模な卒業生作品展を柱とした事業案件が進められた。11



「90周年記念工芸祭」

月1日、母校講堂での80周年記念式典が行われた。卒業生作品展展示会場は定時制食堂（396㎡）をフルに活用、これは70周年での2教室分の3倍の広さ。11月1日は内覧会、2～3日に一般公開したが、朝日、毎日、読売の各新聞に予告掲載していただいたこともあり、見学者が後を絶たないにぎわいであった。朝日新聞は取材にも訪れ、2日の東京版に「工芸祭OB作品に人気」と題し、写真入りで紹介した。人間国宝の内藤四郎氏（1926年・A卒）や文化勲章受章者の山本丘人氏（1919年・A卒）をはじめ、各科合わせて100名の卒業生にもよる300作品の大展示は創立80周年の厚みを存分に示すものだった。

○創立90周年に新校舎をお披露目

同窓会は工芸の耀き願って綴帳寄贈4年にわたる三期の改修工事を経て、創

立90周年を迎えた1997年（平成9）、地上9階、地下2階建ての新校舎が落成した。これを祝して5月10日に「創立90周年・新校舎竣工記念祝賀会」が挙行された。築地工芸会は体育館に綴帳ほか幕一書を寄贈し、記念工芸祭では同窓会の展示を行った。

伊東久江（1985年・F卒）

参考文献・図版出典『工芸学校80年史』『都立工芸

100年の歩み』

医療機器の分野で「世界初」の取り組みを始めています。



「人の未来へ、暮らしに役立つものづくり」を信条としてきた私は、いま新たに医療機器分野への挑戦を決意。その第一歩として開発した製品がディスプレイ電極です。QRコードからご覧いただくことができます。

同窓生みなさま、ご興味があれば私と一緒に新たな事業にチャレンジしてみませんか？

第14期 都立工芸高校卒

代表取締役 駒村武夫

SOFKEN

株式会社 ソフケン

047-498-1111 www.sofken.co.jp/

校友の活躍

銀しろがね 師として

上川善嗣(1992年・D卒)

私は東京都立工芸高等学校デザイン科に在学し、造形表現や意匠、素材研究を通じて日本のものづくりを多角的に学びました。金属加工に限らず、木工、染織、陶芸、グラフィックなど幅広い分野に触れた経験は、「つくるとは何か」を考える上での大切な基礎となり、現在の仕事にも確かに息づいています。

卒業後は家業である銀工芸の道に進み、江戸期より受け継がれてきた鍛金技法を基盤に、銀器の製作に携わってまいりました。銀は、使い手の暮らしの中で時間とともに表情を深めていく素材です。その特性と真摯に向き合いながら、一点一点、手仕事による製作を続けています。

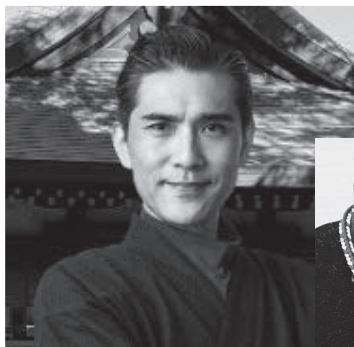
現在は、製作・販売にとどまらず体験教室の講師や後継者育成などにも取り組み、伝統工芸を地域文化や観光産業資源の一つとして捉えた活動を行っています。技術だけでなく、その背景にある歴史や思想を次代へつないでいくことも現代のものづくりにおいて重要な役割であると考えています。

また、近年は国内外から工芸に関心を寄せる方々と接する機会も増え、生活文化としての工芸の価値や、日本のものづくりの姿勢そのものが改めて注目されている

ことを実感しています。工芸を特別なものとしてではなく、日常の生活の中でも自然に使い、社会全体として育てていく文化として捉え伝え続けることを今後の大きな課題と考えています。

在学中に培った「観る力」「考える力」、そして「つくり続ける姿勢」は、進路を選択し、今日まで歩んでくる上で大きな支えとなりました。父や叔父をはじめ、業界の諸先輩方や後輩の中にも工芸高校出身者の方が多く、母校を通じたご縁に恵まれてきたことに、心より感謝しております。

今後も母校で培った学びを礎に、一校友として伝統工芸の本質と真摯に向き合い、ものづくりの現場に立ち続けながら、日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。



右 台東区ふるさと納税返礼品
組紐と銀器のペンダント



技能五輪で銀賞を受賞

古川琴葉(2022年・I卒)

第63回技能五輪全国大会(家具職種)に北海道代表として出場し、銀賞を受賞することができました。

高校卒業後は、長野県上松技術専門校でさらに一年間木工を学びました。現在は北海道にある株式会社匠工芸で働いており、椅子やテーブルなどの木製家具を作っています。大会では、今までの練習の成果を発揮できて、本当に充実した時間を過ごすことができました。

もちろん、大きなミスもいくつかあって悔しい気持ちもありましたが、それ以上に挑戦できたことが嬉しかったです。

高校時代、先輩が技能五輪全国大会に向けて一生懸命練習する姿を見ずと憧れていました。その舞台に自分が立てたことは、まさに夢のような経験でした。

指導してくださった方々と一緒に練習した仲間たちに心から感謝しています。この経験を胸に、これからも挑戦を続けていきたいです。



受賞作品「ライティングビューロー」と古川氏

水口咲氏(1993年・D卒)が

秋の褒賞 紫綬・芸術文化功労を受章

紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方を対象とするもので、今年は17名が受章し水口氏は女性2名・工芸作家2名のうちの1人となっております。

水口氏は2015年の第62回日本伝統工芸展では「乾漆線文合子」で朝日新聞社賞を受賞、2021年の第68回日本伝統工芸展では乾漆箱「新雪」でNHK会長賞を受賞しております。

●水口氏からのメッセージ

「身に余ることで、制作に励むのみに思っております。これまで多くの方に支えられ、漆の仕事を続けられたことに感謝申し上げます。」

同窓生の紫綬褒章は、2010年(木工 苅須田賢司氏(1973年・I卒)・2021年(染織)松原伸生氏(1984年・D卒)に続き3人目となります。



乾漆線文合子「萌む」
第65回石川の伝統工芸展(2025年度)

校友の活躍

第118回日展

日展が2025年10月31日(金)～11月23日(日)国立新美術館に於いて開催され3名の校友が入選展示されました。

- ・春山文典氏(1964年・F卒)
「チヨウ+」



- ・田中照一氏(1964年・A卒)
「流動」



- ・尾澤勇氏(1982年・A卒)
「白嶺堂々・出羽に座す」



第8回日本七宝作家協会展

日本七宝作家協会展が2025年10月16日(木)～22日(水)東京都美術館に於いて開催され星野玲氏(2015年・A卒)が内閣総理大臣賞を受賞されました。



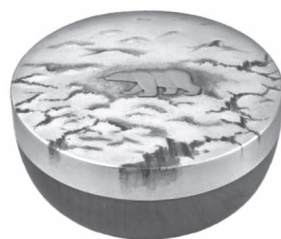
「南北御守大蜥蜴」

第72回日本伝統工芸展

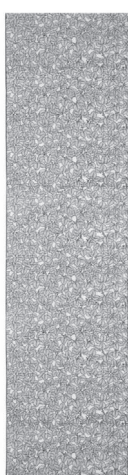
日本伝統工芸展は2025年9月3日(水)～15日(月)日本橋三越本店に於いて

開催され、3名の校友が入選展示されました。

- ・桂盛仁氏(1964年・A卒)
菓子器「北極海」



- ・松原伸生氏(1984年・D卒)
長板中形麻地着尺「桐の葉文」



- ・水口咲氏(1993年・D卒)
乾漆朱塗盆



「おとなの工芸祭」開催報告

14回目となります「おとなの工芸祭2025」が10月27日(月)から11月2日(日)まで一口坂ギャラリーにて開催されました。

今年の出展者は25期(1976年卒業生)から70期(2021年卒業生)の32名となり、世代の幅も広がりました。同窓生や家族、元デザイン科の教諭等211名の来場者があり、おかげをもちまして盛会のうちに終了いたしました。

開催にご協力いただきましたみなさま、ご来場いただきましたみなさまありがとうございました。



会場の様子

校友の活躍

Les points et un point 展／立体の作家たち

2026年2月16日(月)～2月21日(土) Les Gallery (日本橋) に於いて、清水雄一氏(1980年・A卒)が出品されました。本展は、画廊が木、ガラス、陶、布など様々な素材を扱う作家を選抜した展覧会です。出品作「縄文アンテナ」宇宙共振装置」は粘菌をアンテナに見立て、鑑賞者が穴に指を入れる事で完成する作品です。清水氏は、太古より生命の連鎖を続ける単細胞生物「粘菌」が持つ神秘的な魅力を近年追い求め、形にしています。



パネリスト出品作品

村山翰氏:「臨界の尤度、音楽」“Likelihood at the critical point, or Music”
大澤駿也氏:「重要文化財旧小菅刑務所庁舎 所長室、会議室の壁紙調査復元施工工事」
伊藤聖樹氏:「つづみスツール」



会場の様子

「F1科OB・OG展示作者による生徒会との交流会」報告

2025年11月22日(土) 午後1時から、生徒会との第3回コラボレーションイベント「F1科OB・OG展示作者による生徒会との交流会」が、母校「OB・OG展示ギャラリー」にて開催されました。パネリストとして出展者の村山翰氏(2016年・1卒)／伊藤聖樹氏(2018年・1卒)の3名に登壇していただきました。生徒会役員とF1科を中心とした生徒、保護者や先生方の50名余りが参加した交流会となりました。

「交流会に参加して」

伊藤聖樹(2018年1卒)

全日制課程生徒会役員が運営を行う「生徒会と同窓会の交流会」で、卒業生と在校生、在校生保護者の方々と交えお話しすることができ、感謝しております。普段は工芸高校定時制課程のインテリア科の教員をしており、普段より生徒と関わり、工芸高校の同窓会の理事という側面もあり、同窓会の活動や、卒業生がどのような形で現在の生徒に良い影響を与えることができるのか悩んでおりました。その際に、交流会のお話をいただき、卒業生が歩んできた道が在校生の進路選択の一助となれば良いなという思いで、参加させていただきました。

交流会の他の登壇者も在校している時のお話やそこからどのように進路選択に至ったのか、どのような気持ちを抱えていたのかも含めてお話いただき、良い交流が開催できたと思えました。

交流会後もざつぐらんな話ができ、在校生の進路の悩みや作品制作に向かう気持ちや聞くことができ、登壇者側も新しい刺激をもらうことができました。

これからもこのような良い交流会がずっと続けていきますように願っております。全日制課程生徒会の皆様、工芸高校同窓会の方々ありがとうございました。

* 出展作品や作者の詳しい情報は同窓会ホームページをご覧ください。

幾年もの誠実を讀える

工芸伝統「皆勤メダル」の輝き

卒業式当日、慣れ親しんだ教室で皆勤者に贈られる「皆勤メダル」。その重みは、工芸高校が掲げる「ものづくり」の精神そのものです。全日制3年間、定時制4年間のたゆまぬ努力で無遅刻無欠席を買った者のみに授与されるこの金メダルには、日々の自己管理と誠実な姿勢への最大級の敬意が込められています。

既製品にはない校章をあしらったデザインと重厚な質感は、母校が育む創意工夫と美的感覚の結晶です。自主的・実践的な態度で自らを律し、困難に負けず自己実現を図る力を培った証として、メダルを授与される瞬間は、何物にも代えがたい喜びとなることでしょう。

その後の人生を支える自信の糧となり、豊かな人格を育む至高の一品。それは、卒業生が歩んだ誠実な道のりの結実にはかなりません。この素晴らしい伝統を多くの皆様と共に、これからも大切に語り継いでいきたいと感じる工芸高校の誇りです。



工芸の精神を物語る金の重厚感
世界に唯一の皆勤メダル



人間国宝の桂盛仁先生による彫金講習

アートクラフト科教諭 氏家美佐(2010年卒)

アートクラフト科では、2025年12月6日〜28日にかけて計8日間、卒業生であり重要無形文化財保持者(人間国宝)の桂盛仁先生による彫金講習が開催されました。課題は帯留め制作です。1枚の銅板を打ち出して貝の形をつくり、丁寧に研いだのち鑿で溝を彫り、銀線を象嵌しました。伝統的な着色方法「煮色」の仕上げによつて、銅は柿色に仕上がります。曲面に均一な深さで溝を彫るのは難しい技術ですが、生徒たちは初めてながら丁寧に作業し、無事に全員完成させることができました。中でも進みの早い生徒は簪や根付も制作しました。

事務局だより

一般寄附ご芳名

昨年8月1日以降 3月31日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。

・寄付金額

12万8千円

ありがとうございました。

(順不同、敬称略)

佐藤理生、小池孝、関根伸司、中代源次郎、西田耕一郎、宮崎忠夫、柿坪英志郎、坂巻謙一、馬場和夫、若松延男、町田朋果、松本七五三吉、井上伸行、村木邦子、丸山士郎、間中辰男、渡部なお、大井正五、粉川愛理、菊池みよの、刀根理佳、今井定義、和田義幸、渡辺一孝、小田部邦彦、関口信幸、三橋宏之、善養寺幸子、関根真美、小川光、佐藤麻央、糸永彩乃、木村六花、小林久展、桂剛、高木家守子、田中秀、大澤章男、松井辰弘、戸村正二、山増智子、綿貫佳泰、小林威士、石倉孝、成本徹、加藤博己、飯田真美、小川政之、木崎雅江、紫藤竹夫、林正清子、武田和之、坪井裕、魚住涼音、吉田小百合、和田忠能、山田一彦、和田勝、佐味貫義、飯塚邦雄、狩野翠里、池田修一、串田恭男、渡辺一孝、地濃正明、松田健、小口輝久、金武司、吉田小百合、和田忠能、其田卓三、油井進、油井進、矢島三男、多田洋一、渡部トキエ、時田佳代、副島彰生、小幡武司、塩田真梨奈

訃報

前回の会報(186号)以降、本会宛正式にご連絡ありました方々は、次の皆さまです。ご冥福をお祈り申し上げます。

(一)内は逝去された日です。

益田凡夫氏	旧D職員 (R7・12・8)
永瀬三男氏	S21A卒 (R6・)
福島清明氏	S27M卒 (R5・)
藤原高遠氏	S27M卒 (R8・2・10)
鈴木淳司氏	S29A卒 (R7・9・12)
片岡英夫氏	S29F卒 (R7・4・24)
渡辺健一氏	S29P卒 (不明)
井上稔氏	S30A卒 (不明)
岩田精久氏	S30M卒 (不明)
青野博氏	S31M卒 (不明)
和田頼顕氏	S31M卒 (不明)
安富信也氏	S31D卒 (不明)
三田村幸治氏	S32M卒 (R7・5・4)
植野弘一氏	S33D卒 (R7・12・26)
田島悌彦氏	S34M卒 (R7・8・4)
竹内清一郎氏	S34F卒 (R7・5・2)
野口浩祐氏	S35M卒 (R6・10・)
橋本勝氏	S35D卒 (R8・2・7)
芦澤峯夫氏	S36M卒 (R5・6・8)
福島良守氏	S40M卒 (R7・12・5)



同窓会
ホームページ



都立工芸全日制
ホームページ

(スマートフォンから会費納入ができるようになりました)

同封の「払込取扱票」のお名前の下に印刷されたバーコード(下図)から会費の納入ができます。利用できるのはLINE Pay(ラインペイ)、PayPay(ペイペイ)、au PAY(エーユーペイ)、PayB(ペイビー)です。アプリで読み取ると支払い画面になり、確認して納入の終了です。(画面に表示されるサラトは会費納入の代行業者です)



技術資料の制作

取扱説明書
マニュアル
翻訳
テクニカルイラストレーション
3D
音楽
通販

PLANNING CENTER
STATION.M
有限会社ステーション.エム

Instruction manual
Service Manual
Translation
Technical Illustration
3D
Music
Mail-order selling

有限会社 ステーション・エム
代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
http://www.station-m.co.jp/ e-mail: hosoe@station-m.co.jp

母校だより・全日制

次代へ繋ぐ、あの日とこれからの備え
防災の日に見せた工芸生の規律ある姿

2025年9月1日（月）の防災の日、全日制による避難訓練が実施されました。東日本大震災（三）から15年が経過し、現在の高校生たちの多くは当時まだ0歳〜3歳で、あの日の記憶を直接持たない世代となっています。だからこそ、学校現場では「歴史」としての教訓をいかに自分事として捉え、備えを継承するかが重要な課題となっています。

当日、避難指示を受けた生徒たちの行動は極めて迅速で、体育館へと向かう足

母校だより・定時制

心とお腹を満たす創造の源！

進化し続ける定時制の手作り給食

夕暮れの学舎に広がる香りは今も健在。そして現在の定時制給食は驚くほどの進化を遂げています。栄養バランスはもちろん、季節の行事に合わせた特別献立や、手作りにこだわったデザートまで。その彩り豊かな盛り付けは、まさに「ものづくり」の精神が細部にまで宿っているようです。空腹を満たすだけでなく、生徒たちの創作意欲を支える大切な活力源。時代は変われど、共に机を囲み温かい食事を楽しむ時間は、かけがえのない青春の1ペ



取りも終始、静寂を保っていたとのこと。掲載された記事の中で印象深いものは、一堂に会した全生徒が整然と整列した光景です。自らの記憶にはない震災を、学びを通して今の自分の課題とし、有事に仲間を思いやる連帯の心がしっかりと根付いていることが伺えます。また、その規律正しさからは、良き伝統を伝承する工芸生の頼もしさも伝わってきました。

ージとして刻まれている事でしょう。

同窓生の皆様も、公式サイトのご覧ください。工芸生の輝く日常が、そこには広がっています。



ハロウィンバージョンの給食
パンブキンプリンは
ココアパウダーでデコレーション

都立高校TIPSフォーラムで快挙！

「フィギュア制作」研究をポスター発表

2025年12月26日（金）、有明Gymnasiumで開催の「都立高校TIPSフォーラム」にて本校生徒がポスター発表を行いました。TIPSとは、都が推進する「探究学習」のプロジェクト。自ら問いを立て、解決する力を養う活動です。本校は、特別賞を受賞した「フィギュア制作」の研究を披露。デザインと素材の関係を分析



全科が輝いた真剣勝負の熱い冬！

第1回球技大会、全4種目を開催

2025年11月、第1回球技大会が開催されました。種目は卓球、バレーボール、バスケットボール、ドッジボールの4種目。会場はグラウンドや体育館等の多岐にわたり、各所で熱戦が展開。特筆すべきは、全科が各種目で勝利を分け合った「平和」な結果です。卓球はG科、バレーはA科、バスケットはI科、ドッジはM科が優勝。これは全生徒が母校の名誉をかけて真剣勝負に挑んだ証といえるでしょう。ものづくりで磨いた集中力を発揮し、心地よい汗を流した生徒たち。科の垣根を



卓球



バレーボール

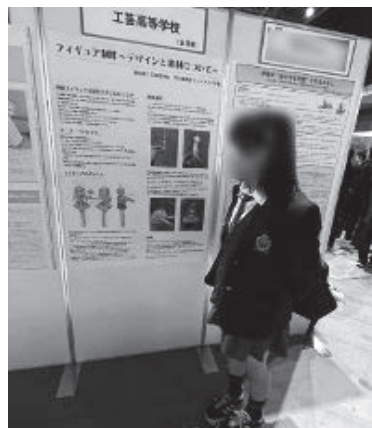


バスケットボール



ドッジボール

越えた連帯感が溢れる一日となったようです。若き工芸生の躍動に拍手を。



聴衆を魅了した工芸の探究心

した発表に、多くの来場者が聞き入っていました。実社会との関わりから課題を見いだす「探究」の過程は、まさに工芸の魂。独創的な視点で挑んだ生徒たちの姿は頼もしく、次代を担うクリエイターたちの飛躍が楽しみです。

<p>都立工芸同窓会 副会長 木村 光輝 (1985年・M卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 副会長 磯野 祥 (1989年・A卒)</p>	<p>中京工芸会 副会長 岩佐 泰樹 (1965年・D卒)</p>	<p>関西工芸会 会長 丸山 士郎 (1968年・A卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 会長 一般財団法人築地工芸会 工芸基金理事長 藤岡 俊平 (2014年・M卒)</p>
<p>都立工芸同窓会 副会長 佐々木 慎一 (1973年・P卒)</p>				<p>都立工芸同窓会 副会長 岡田 里美 (1989年・F卒)</p>
<p>都立工芸同窓会 理事 神山 隆夫 (1968年・A卒)</p>				<p>都立工芸同窓会 副会長 帆足 宗二郎 (1989年・D卒)</p>
<p>都立工芸同窓会 理事 伊藤 聖樹 (2018年・I卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 理事 佐藤 貴志 (1989年・F卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 監事 ㈱スパイク代表取締役 桜井 洋一 (1968年・F卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 理事 ㈱ステーション・エム代表取締役 細江 邦雄 (1966年・M卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 理事 善養寺 幸子 (1984年・A卒)</p>
<p>都立工芸同窓会 理事 広報委員長 梶 広幸 (1969年・D卒)</p>	<p>㈱ソフケン代表取締役 駒村 武夫 (1965年・D卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 荒井 拓哉 (1960年・D卒)</p>	<p>都立工芸同窓会 理事 久保木 秋徳 (1988年・P卒)</p>	<p>小学生用水平開き学習帳製造販売 米・欧特許取得ノート発売 ㈱中村印刷所 中村 輝雄 (1963年・P卒)</p>

